

## 厚労省「第6回 地域医療構想策定ガイドライン等に関する検討会」 2014/12/25 高度急性期などの各医療機能の境界設定を議論

地域医療構想策定ガイドライン等に関する検討会（座長：遠藤久夫・学習院大学経済学部部長）は12月25日、2025年の医療需要を推計する際の枠組みとなる各医療機能の区分け方法について議論を行った。

事務局は、医療資源投入量によって判断する各医療機能の境界点について、基本的な考え方及び患者像の例を提示。①高度急性期と急性期の境界点は「ハイケアユニット等を退室する段階の医療資源投入量」とし、患者像として人工呼吸器は離脱したが、抗菌薬治療等の標準治療が必要であり、画像や血液検査等による評価も継続する状態を例に挙げた。

②急性期と回復期の境界点は「急性期治療が終了し、医療資源投入量が一定程度落ち着いた段階の医療資源投入量」とし、抗菌薬治療等の標準治療は終了したが、輸液管理や術後のドレーン管理を継続する状態を患者像の例とした。

③回復期と慢性期・在宅医療等の境界点は「療養病床又は在宅等においても実施できる医療やリハビリテーションの密度の医療資源投入量」とし、患者像の例には輸液管理等が不要で定期薬以外の治療は終了した患者を挙げた。

医療需要の推計に向けてDPCデータ及びNDBの分析を進めている松田晋哉構成員（産業医科大学医学部教授）は、「（入院基本料とリハビリテーション料を除き）①は診療報酬点数3,000点、②は500～1,000点が目安になるのではないか」との見解を示した。

その他、構成員からは「ハイケアユニットのような具体的な文言を1つだけ入れると、独り歩きする恐れがある」など表現の修正を求める声が複数聞かれた。

### ■療養病床から在宅医療への移行は現実的な見込みを

③では療養病床の入院患者を在宅医療へ移行するものとして推計を行うことから、療養病床における入院受療率の低下を見込むことになる。その際、同入院受療率には地域差があるため、事務局は、在宅医療や介護施設等の整備の見込みなどを踏まえつつ、地域ごとに一定の幅の中で補正することを提案。地域差を補正する際にどこまで見込むかについては、①全ての2次医療圏が全国最小レベル（県単位）まで入院受療率を下げる（療養病床から在宅医療への移行を進める）、②最も入院受療率の高い2次医療圏を全国中央値レベル（県単位）まで低下させ、他の医療圏も全国最小との差を等比的に低下する——の2案を例示した。

構成員からは、「①を目指すのは良いが、実現は難しい」として現実的な目標設定を求める意見が多く見られた。また、武久洋三構成員（一般社団法人日本慢性期医療協会会長）が「療養病床が少ない地域では一般病床がその機能を担うため、療養病床の入院受療率だけを見るのは危険ではないか」と懸念を示すなど、地域差を反映するためには療養病床の入院受療率以外のデータも検討すべきとする発言も複数あった。

## ■病床機能報告制度は全国共通フォーマットで公表

病床機能報告制度の情報公表の在り方について事務局は、①原則的に全国共通の公表フォーマットを使用すること、②用語解説の掲載や医療機能情報提供制度等の既存情報の活用など、分かりやすくするための工夫をすること、③報告値が10未満の場合は原則非公開にするなど個人情報に配慮すること、④都道府県のホームページ等により速やかに公表すること——などを提案。具体的なホームページ用のフォーマットのイメージも示した。

山口育子構成員（NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長）は、住民・患者の立場から、4つの医療機能（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）の説明をより分かりやすいものにすることや、様々な媒体によるホームページの周知などを提案し、多くの構成員の賛同を得た。事務局案に大きな反対はなかった。

## ■病床機能報告制度の速報値を公開

事務局が提出した資料では、2014年10月からスタートした病床機能報告制度の報告状況についての速報値（下表参照）も示された。12月19日時点で集計可能となった医療機関のデータで、具体的には報告対象全体のうち病院は69.7%、有床診療所は46.5%となっている。

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
一般病床	2014年7月1日時点	15万3,052床	43万7,613床	4万6,280床	6万3,911床	70万856床
	6年後の予定	15万9,689床	41万4,296床	6万5,276床	6万3,703床	70万2,964床
療養病床	2014年7月1日時点	0床	1,554床	3万9,020床	19万3,046床	23万3,620床
	6年後の予定	0床	2,581床	4万5,455床	18万5,353床	23万3,389床
合計	2014年7月1日時点	15万3,052床	43万9,167床	8万5,300床	25万6,957床	93万4,476床
	6年後の予定	15万9,689床	41万6,877床	11万731床	24万9,056床	93万6,353床
構成比	2014年7月1日時点	16.4%	47.0%	9.1%	27.5%	100.0%
	6年後の予定	17.1%	44.5%	11.8%	26.6%	100.0%